

「防災」が変わる。「防災」を変える!

3月30日(土)に防災訓練を開催。でも、今までの訓練とは少し違いました。それは!「誰もいない防災訓練」だったのです。こんな無謀な防災訓練は大丈夫なのかとは思いましたが、防災会設立21年を迎えて、加古川グリーンシティで実際に災害が発生した場合、人はどれくらいの時間で、どのように行動し、災害発生後の対応がどう可能なのかひとつの検証的な防災訓練としました。

さて、午前9時開始。管理事務所の職員による訓練放送が流れる「只今、大きな揺れを感じました。地震です。落ち着いてください。まずは自分の身の安全を守ってください」。この放送により大地震が発生した想定でスタートする。この時点では居住者は各家の中で揺れから最大限の身を守る行動をとっているはず。しばらくして「今、揺れは収まっています。火の元を確認し、ガスを使用していたら直ちに消してください」。続いて、揺れの収まりを確認した人から避難行動へと移る。各家の玄関に「避難済シート」を貼り出し訓練会場へと避難し始める。

当然、防災会役員も各住戸から自分の身の安全を確保した後管理事務所前へと向かう。到着が早い役員が避難してきた人達に声掛けをして、安否確認チェックボードを集会所へ取りに行き避難場所となるCD棟間ファイヤーレーンに設置を始め安否の確認準備を行う。これらも事前の打ち合わせは最小限にとどめ、より実践に近い活動にした。避難完了の人に集合した後に、実際の余震発生も考え、各人が身を守るための行動の訓練した。

その最中に「火事だ〜」と火事ぶれがある。発煙筒がたかれ真っ赤な煙が立ちこめる。その時「火災報知機を押してください!」。その場にいる参加者の数名が火災報知機を探す。普段、火災報知機を何気なく見ているにも実際には「どこにあったかな?」と考え込んだり、煙が発生しているにも関わらず煙の方へと引き寄せられてしまう行動を取ったりもした。けたたましく非常ベルが鳴り響く。その時「誰か119番通報をお願いします」と。参加者がスマホを取り出し119番通報。「これは訓練通報で

す。火災です・・・」と電話の向こうのオペレーターの質問に答えていく。通報終了。ここで火災報知機の発報方法の解説と火災報知機の鳴動音響をなぜ停止させないかを解説する。火災報知機のベルが鳴動したということは何かが起こっているという合図であり、原因が確定するまで鳴動音響は止めない旨をお伝えし、水消火器を使用しての初期消火訓練。訓練で何回やっても、いざという時には使用方法を間違えてしまうもの!と伝え、多くの方に訓練参加を呼びかけた。手投げ消火弾“サット119”や屋内消火設備の使用方もパネルで説明。今回から配備した“消火ホースブ

ロテクター”の設置方法と必要性を解説し、消火用水の保護の必要性を詳しく説明。避難に関してもベランダの避難ハシゴ使用や、ベランダ隔壁の蹴破り訓練などより実践的な訓練を行った。その時!「地震だ〜!」余震発生で、訓練会場の全員が自分の身を守るための行動を素早くとる。先程の訓練が早速に役だったのだ。

上層階から「意識なし!傷病者を搬送します」と呼び掛けが。非常階段を利用して階段避難器具キャリアダングで1階へ。搬送された傷病者に対して、その場にいる人が応急手当を施す訓練に移る。「意識なし、誰か119番通報をお願いします。AEDを持ってきてください」これも打ち合わせなくその場にいる人が自主的に対応にあたる。

意識が戻ったが、手足を骨折しているとの想定。子どもたちも参加して自分の知っている手足の固定方法を実践。後に専門家からも追加指導を受けた。その後エレベーターの閉じ込め時の対応や自宅でできる非常用トイレの作成方法なども解説。更には避難所の開設方法や防災クイズ等を交え、楽しく笑顔の防災訓練となりました。最後に「集会所に緊急支援物資が届きました」の合図により、参加者全員で支援物資運搬をバケツリレー形式で行いました。訓練終了と同時に大雨。参加者が口々に「奇跡的やなあ」と笑顔での終了。今回も多くの皆様の参加に、心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

